

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第 3 号

# 剣道だより (KENDO Nagasaki)



## 卯の花の 咲きたる野辺ゆ 飛びかけり・・・「小満」(しょうまん)

陽気が良くなって、梅の実がなり、走り梅雨がみられる頃になります。また、田植えの準備を始める頃でもあります。万物の成長する気が次第に長じて天地に満ち始めることから「小満」(しょうまん)といわれています。ようやく暑さも加わり、麦の穂が育ち、山野の草木が実をつけ始め、紅花が盛んに咲き乱れます。爽やかな五月晴れもあれば、ぐずつく五月雨もあります。どちらも命を育む大切な贈り物です。「卯の花くたし」という言葉もあります。この意味は5月から6月上旬にかけて、シトシトと長く降り続く雨のことです。「くたす」とは「腐らせる」「だめにする」という意味で卯の花を腐らせてしまうくらいほどの長雨ということです。また、小満には、「万物が満ち溢れ草木が繁る」という意味もあります。今年は5月21日(月)が小満にあたります。



写真：卯の花

## 報告・第 73 回国民体育大会(兼第 68 回西日本各県対抗剣道大会)長崎県選手選考会

平成 30 年 4 月 22 日(日)、長崎県立長崎南高等学校武道場において、標記選考会が開催されました。(主催：長崎県剣道連盟) 第 73 回国民体育大会「福井しあわせ元気国体」は福井県で開催されます。剣道競技は平成 30 年 9 月 30 日(日)～10 月 2 日(火) 福井県福井市の福井県立武道館で開催されます。

第 68 回西日本各県対抗剣道大会は、平成 30 年 9 月 23 日(祝/日)、大分県の別府アリーナで開催されます。選手の皆さんの実力が発揮され最高の試合ができますよう祈念申し上げます。

なお、長崎県剣道連盟では競技力向上対策事業として、国体選手等合同稽古会を県内外各地で実施しています。特に毎週水曜日の 19:30～20:45 に県警武道館で実施している同稽古会については、選手候補者はもちろん一般有志の方々にも奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

### ◆成年男子の部

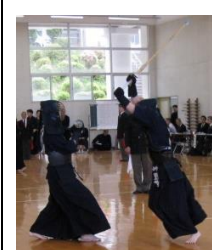
先鋒：牧島凜太郎(鹿屋体育大)  
次鋒：北浦 裕介(県警)  
中堅：城戸 克典(諫早市)  
副将：深川 幸治(諫早市)  
大将：本田 芳宏(県警)

### ◆成年女子の部

先鋒：渡邊 綾乃(県警)  
中堅：野崎 優花(学剣連)  
大将：福田美佐子(学剣連)



写真：成年男子の部 副将 決定戦



写真：成年女子の部 中堅 決定戦

## 報告・平成 30 年度 第 41 回 長崎県道場少年剣道大会(道場連盟)

標記大会が平成 30 年 4 月 22 日(日)、諫早市立森山スポーツ交流館で開催されました。小学生団体上位 12 チーム、中学生団体上位 10 チームは 7 月 24 日、25 日に日本武道館にて開催される全国道場剣道大会に出場します。また、個人優勝者は 9 月 23 日(日)愛媛県立武道館で開催される全国道場少年剣道選手権大会に長崎県代表として出場します。

小学生団体 優勝 不二剣道錬成館(佐世保市) 小学生男子個人 副島海斗(不二剣) 小学女子個人 山浦友希(真崎少年)  
中学生団体 優勝 島原剣心館(島原市) 中学生男子個人 下田慎太郎(島原剣心) 中学女子個人 永井萌(長田少年)

## 報告・平成30年度 剣道中央講習会伝達講習

平成30年3月31日(土)~4月1日(日) 全日本剣道連盟主催平成30年度剣道中央講習会が開催されました。長崎県剣道連盟においては、全日本剣道連盟の志向する重点事項を的確に伝え、剣道の資質向上を図るため、標記講習会を実施しました。

## ◆伝達講習会:概要

- ・第1回講習会…4月8日(日)長崎市:長崎県立総合体育館 ・第2回講習会…4月14日(土)佐世保市:長崎県立武道館
- ・講師 猪股 弘 教士八段 平井 節朗 教士七段
- ・講習概要 講義(110分)…指導法・審判法・日本剣道形の全般的事項、日本剣道形、木刀による基本技稽古法  
木刀による基本技稽古法の応用(防具着用で生かす指導法)(45分)
- ・稽古会 講習会終了後、稽古会が開催されました。



写真:日本剣道形 実技講習



写真:講義 指導法・審判法講習



写真:実技講習 長崎県立総合体育館

## 遺稿・・・「気品ある剣風」剣道範士八段 池田 一先生(故人 不二剣道錬成館)

「気品ある剣風」の確立に、基本の道を、子供達と共に忍び耐え続けて来ました。

「杉の木は伸びは早い、根を張らないから大樹になっても大きな風に耐えきれず倒れる。楠は杉に較べて成長は遅いが、しっかり根を張り幹も太り枝も繁つて大きな風にも持ち耐えられる。剣道はこの楠が根を張るように、基本がしっかりしていれば、技も力も自然についてくるものだ。当てっこ剣道は駄目だ。基本を身につけて打つ剣道をやれ。」と、杉と楠とを例えにして、基本の大切なことを父から訓されました。それを今日でも記憶しています。

また、「剣道は姿勢がよくなければだめだ。姿勢が良くないといひ技はでない。まず姿勢を正し、そのつぎに技を正す。それ以外に上達の秘訣はない。しかるのちに無形のころに入る。素直な心で正しい剣道を学ばなければならない。道にある者は後退してはいけない。つねに夢をもって前進していくことが大切だ。永い修業うちには稽古や試合で負けることも多い。負けることは自己を反省するために尊い教訓となる。この教訓を糧として、さらに自己の鍛錬に努めることが肝心だ。」とも教えられました。更にきびしきは、「師」の道である。親鸞上人は、「弟子一人も もたず侯」と言われた。師になろうとしても、なり得るものではない。むしろ「師」の意識を捨てて、強く自らを反省し、子供を師として習い、良き弟子に自らなりきれて、はじめて「師」たり得るのではなからうか。

さて、「気品ある剣風」とは…。昭和の剣聖と崇められた、範士十段 持田盛二先生(昭和四年五月大礼記念天覧剣道大会優勝警視庁名誉師範 昭和四十九年二月九日 八十九才で永眠)は、剣道と気品について、次のように教えられています。剣道を修行する上に、種々の目標を立てることができると思う。昔から、「大強速軽」と言う事があるが、これなども誠により教えて大きい。強い、速い、軽妙な剣、それぞれ、修行の目標となるものである。即ち、この意味から「気品」ということも剣道修行上の大切な目標になろうかと思う。強いことももちろん重要なことであるが、強いだけでは物足りない。強い剣道であると共に気品ある剣道でありたいものである。あの人の剣道に「気品」があるとかが無いとかは、誰にも自然に感じられるものであるが、しからば、その「気品」とはどんなものかという段になると、容易に言いあらわし難い。

気を花に例えれば、気品はその薫りのようなものではあるまいか。あるいは心を光になぞらえれば、気品はその眩しさのようなものではあるまいかと思う。「花鮮やかならざれば薫りを得がたく、光明かならざればその映ひを望み得ない」と同様に、気品は正しい心澄んだ気から、自然に発する得も言われぬ気高さである。何事によらず、真剣になっている時ほど、気高いものはなく、三味の境地、無念無想の境地に入りこんだ時ほど気品あるものはない。結局、真剣を離れて気品は得られぬものである。一本の稽古もいやしくせず、ただ真剣、ただ一心。その心掛けがあつたら求めずして上達し、求めずして気品ある稽古となるは請合である。齋戒沐浴、神の御前に出ずるが如き厳肅なる気持ちをもって、日々の稽古を真剣に励みたいものである。「端正」ということも気品を養う上に大切な要素の一つである。心が端正でなければ、気品は添わない。(以後省略)

